

令和7年度 学校自己評価(実施段階)

学校法人美萩野学園 小倉日新館中学校長

◎ : 適切である  
○ : 概ね適切である  
△ : やや適切である

学校運営計画 (5月策定)				評価 (総合)
学校経営方針		生活信条「自主自律」「創造立志」を教育の基盤とし、知・徳・体の調和のとれた教育で確かな学力と心豊かで創造性に富んだ人材の育成を目指す。		◎
本年度の目標 (昨年度の成果と課題)		本年度重点目標	具体的目標	
<b>本年度の目標</b> 1 生活信条「自主自律」「創造立志」を本校の教育基盤とした教育活動を推進することで、「主体的に学ぶ」態度を育成し、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力を育てる」ことを目標とする。 2 「円満な人格の形成を図るため」に、生徒の健康な心身の育成及び将来に向けた社会的自立と社会参画を見据え、高い志と自律心のある心豊かな生徒を育成する。 3 職員のスキルアップ(授業力の向上)に向けた取り組みを加速させるためのICT機器を活用した授業づくりを促進する。 4 研修の機会を増やすことで、教員並びに生徒の中で人権意識を高める。更に日常的な教育活動の中においても人権教育の充実を図る <b>＜昨年度の成果と課題＞</b> 1 授業時数の確保に努め、生徒一人ひとりに応じた分かる授業を工夫し、確かな学力の向上を図ることができた。 2 規律の維持、基本的な生活習慣の確立が図れた。愛校心、自主自律・創造立志の精神を全教育活動を通して涵養を図ることができた 3 学校行事の充実、九重全校合宿、信州教育合宿、体育会、マラソン大会、寒稽古など従来からの伝統行事を通して自己指導能力の向上を図った。 4 学校通信「日新館」、学年通信やホームページ等で学校生活の様子や学習状況を保護者と共有している。日新会親睦会、謝恩会などを通して保護者と連携を図れた。		○授業改善をより一層進め、教育活動の向上を図り生徒が高い志を持って意欲的に学べる学力の育成	・デジタルシティズンシップ教育の更なる推進と充実した校内研究や研究授業をとおしして授業力実践の向上を図る。 ・「授業で勝負」の理念のもと、確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力をつけたと実感できるように日々の授業改善を進め。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。	
		○「少し困難な目標設定」「生徒が安心して、主体的に取り組める最小限度の支援と手厚い指導」「達成感を高める賞賛、行動の強化」を実践する	・すべての教育活動を通じて、他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。 ・個に応じた指導を行うことで生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。 ・地域社会と連携したキャリア教育を推進し、目標の実現に向けて諦めず努力する生徒を育成する。	
		○カリキュラムマネジメントを進め、本校の特色を生かした適切な教育課程をPDCAサイクルに基づき充実させる	・生徒の進路に対応したカリキュラムで、生徒の自己実現に向け、第一志望進路の実現を目指す。	
		○教師と生徒の人権意識の高揚に努め、生徒一人ひとりの人権が尊重される授業づくりを実践する	・人権尊重の精神に涵養し、いじめ・暴力・差別等は絶対に許さない全人教育を行う。	
		○真のリーダーを育成し、更なる学校活性化を図る	・生徒主体の学校行事などの成功に向けて努力するリーダーシップのある生徒を育成する。	
	具体的目標	具体的方策	評価(2月)	本年度の反省と次年度の主な課題
教務部	個に応じた指導の実践	一人一台端末を効果的に活用した学習活動の更なる充実及び「主体的」「対話的」深い学びの実践。	○	・学習の基礎基本を徹底することを重点に置きながらも、個に応じた指導についても先生方の日頃からの手厚い教育活動を実践していく事によって個々の能力を伸ばし更なる高みを目指すことができている。今後はさらに日頃からの授業等での工夫を行うことで生徒達に「主体的」「対話的」深い学びへと導き理論的な思考力、問題発見能力やコミュニケーション能力を伸ばしていけるよう改善に努める。 ・ICTの機器を使つての授業展開もさらに積極的に活用し、より分かりやすい授業を展開し確かな学力の定着を目指す指導を実践していく。
		爽やかな挨拶、規律ある学校を目指し、スモールステップの形成的評価を実践し、基礎基本の徹底を図る。	◎	
高い志を持って意欲的に学ぶ生徒の育成	観点別評価の更なる充実とその質を高める。	授業中における演習や実習時間を確保することで、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて能動的な学習態度を育てるとともに生徒の主体性を伸ばし、確かな学力の定着を図る。	◎	
		一人ひとりの教育的ニーズに応えられるよう、学年・教科及び進路と連携を図り、適切な課題を課すとともに、学習時間の追跡調査などを行う。	◎	
		主体的・対話的で深い学びが実現できるように「最小限度の支援」を実践し、生徒主体の授業づくり・授業改善に努めるとともに、ICT機器の積極的な活用や教材開発・研究を奨励する。	◎	
生徒指導部	自己指導能力の向上	学校行事を通して、リーダーシップやフォロワーシップの精神を身につけると共に、共感的人間関係の育成を図る。	◎	
		教育活動全般において、不易なものや流行を考えさせることによって、自ら考え適切な行動を実行できる能力を育む。	◎	
		学校行事や学級活動を充実させ学校の活性化を図ると共に、ボランティア活動などの校外活動に積極的に参加させることによって、生徒の自己有用感を高めていく。	○	
	健康等における自己管理能力の育成	健康に関する面談を実施して、担任、保護者、学校医、(カウンセラー)等の連携を図る。	◎	
		薬物乱用防止教育、救命救急講習会等保健に関する健康教育の円滑な運営に努める。	◎	

進路指導部	生徒の自己実現の実現に向けた進路指導の実践	各学年ごとに進路に関する学習計画を推進していくことで、生徒自身の進路を自ら選択する力を養う。	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年ごとに系統立てた取り組みができています。1年生は将来を考える2年生は職業体験を投資して仕事の大切さや人間関係を学び3年生は具体的な進路に関して考える着かえを与えキャリア教育等にいかしていけた。これも来年度も継続して実施し理解を深めることに務める。</li> <li>将来の進路に向けた情報収集や目標設定など細かく対応することができ、今後は更に具体的な目標に対して情報収集能力を圧させていきたい。</li> <li>業者テスト等を有効に使えるながら、県全体等のデータを活用し個に応じて適切に対応できた。今後も、早め早めにデータの収集などを行い対応できるようにしていきたい。</li> </ul>
		グループ活動や学年及び学校発表の機会を増やし、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成に努める	◎			
		様々な外部との連携を図ることで、生徒の主張を外部で発表する機会の増加に努める。	◎			
進路希望の実現	第一志望への全員合格を目指せるように、生徒の進路希望を考えながら個に応じた進路指導を実行する。	第一志望への全員合格を目指せるように、生徒の進路希望を考えながら個に応じた進路指導を実行する。	◎	◎	◎	
		実践力を身に付けさせるような授業内容を取り入れていけるよう各教科等と連携するように努める。また、様々な対策を早め早めに実践し、生徒の進路意識の向上を目指す。	○			
		英語技能検定をはじめ様々な検定へチャレンジさせ、幅の広い進路選択を目指す。	◎			
生徒募集部	幅広い広報活動	公開授業やオープンスクールなどを充実させ「見える」化ができるよう内容を見直し、計画を立てる。各分掌との連携を取り実施する。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から幅の広い広報活動を行う事で、本年度は昨年度より手ごたえを感じる。</li> <li>塾・小学校訪問等においても、昨年度より評判が良いと感じている。今後とも、情報を公開し、新たな生徒募集についても早めの対応と新たな仕掛けを構築できるよう努めていきたい。</li> </ul>
		塾・小学校訪問を計画的に実施する。全職員で訪問することで、職員の広報活動への意識を高める。	◎			
		出前授業や説明会の要請を受け出席する。出前授業については教科に依頼する。	◎			
保健環境課	保健活動を通して豊かな心で創造性に富んだ人材の育成を図る	保健に関する行事等を円滑に計画実施し、各担任等と連携し情報共有に努める。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会を中心に状況の把握を行う。また、校医や協力医と連携や打合せ等を行うことができた。次年度以降も更なる状況の把握や連携を密に活動していきたい。</li> <li>職員への健康状況への啓発特定謙信等の勸奨生徒へはスクールカウンセラーと連携したケアを更に深めていく。</li> <li>外部の研修会等をうまく活用し、実践対応についての学びを多く得る。次年度に対しても、多くの情報を収集し、反映させていきたい。</li> </ul>
		生徒、職員の心身の健康増進を図るため情報の共有と外部機関との連携を図る。	◎			
		職員研修会の企画、実施を通して保健環境や教育相談についての知識、理解の一層の充実を図る。	○			
第1学年	小倉日新館中学生としての誇りと自信を持った生徒の育成を図る	時間やルールを守り、挨拶やマナーなど他者への配慮を大切にできるよう心がける。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの行事に参加することにより、日新館の不易の部分を理解実践できた。今後とも継続できるよう努める。</li> <li>それぞれの学級活動や授業において、それぞれの立場を理解し実践できた。今後とも継続し学力向上に努める。</li> <li>授業中は勿論の事様々な場面において日新館生としてポジティブな会話に努め向上した。今後とも継続していく。</li> </ul>
		各自の役割が果たせるよう、生徒一人ひとりが主体的に行動できる学年集団の構築に努める。	○			
		自らが基礎・基本の大切さを理解するためにも、中学生としての人権意識の向上を図る指導に努める。	◎			
第2学年	中堅学年として他者と共同しながら、人間性を高め学力の充実・慎重を図る	中堅学年としての更なる意識の向上と、人間性豊かな学年集団を構築する。また、生徒を中心とした学校行事を実施し、PDCAサイクルでよりよい運営を目指す。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次と比べても大きく成長し、人間性豊かな学年集団として中心学年として引っ張ることができた。今後とも期待したい。</li> <li>教員と生徒が一体となり個々の能力を引き上げるよう学級活動等を通して実践できた。今後さらに向上させたい。</li> <li>文化発表会以降生徒の自覚が更に高まり今後にも期待する。今後は最上級生になる自覚を持たせ指導助言を行っていく。</li> </ul>
		「手厚い」生徒理解・指導と、「最低限度の支援」を明確にし、個々の自主性を伸長するよう心掛ける。	◎			
		周囲を見て全体の事を考え、協働できる生徒の育成と、具体的な進路意識を高める。	○			
第3学年	将来の希望を叶えるための進路実現と、一個人として成長できる生徒の育成を図る	自分が学びたいことを第一志望先で実現させるためどのような力が必要なのか、自分で正確に調べ、自ら学び、史料、理解しようとする態度を育成する。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体で向かう姿勢が高まり、いけるのではなくいきたいを実践でき目標を達成できた。将来像が描けるような計画をたてられる児童の継続を実践していく。</li> <li>日ごろの学級活動や授業での取り組みを通して、個だけでなく、集団として学び合う姿勢が十分にでき良い雰囲気を持った学年集団が出来上がった。今後とも継続していきたい。</li> <li>返事、挨拶、掃除ができる生徒は、伸びると言い続けているが、その前に率先垂範を大切にしたい。口頭だけではなく大人が手本を示すことを今後とも大切に実践していきたい。</li> </ul>
		全てにおいて前向きに取り組める雰囲気を作りながら、自ら学び向かう生徒の育成を目指す。	◎			
		集団に貢献する心情と周囲への感謝の念を抱くよう、人権意識の向上を目指す。	○			
建学の精神	たくましい生徒の育成	教育活動の全領域において知・徳・体の鍛錬、人権尊重の視点に立った取り組みを推進する。	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野において建学の精神を大切に実践している。今後も建学の精神をもって実践していく。</li> <li>授業や各行事等で取組め成果が出ている。今後とも学び合う生徒の育成に努めていく。</li> </ul>
		全てにおいて前向きに取り組める雰囲気を作りながら、自ら学び向かう生徒の育成を目指す。	◎			